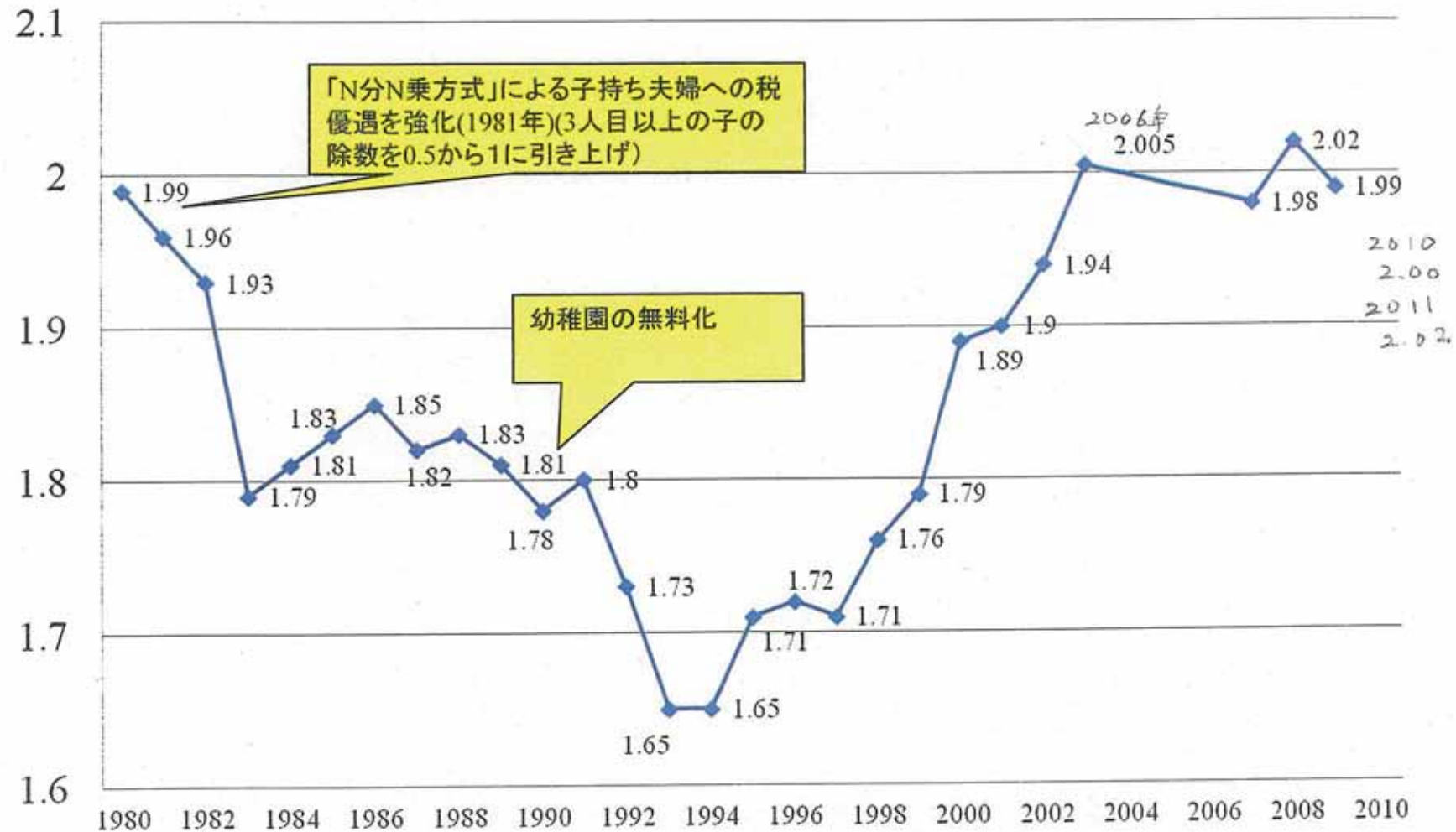


フランスにおける出生率の推移(1980年以降)



(出所)国立社会保険・人口問題研究所「人口統計資料集(2004年版)」

フランスとドイツの家庭生活調査

ーフランスの出生率はなぜ高いのかー

平成17年4月25日
内閣府経済社会総合研究所

主なポイント

1.フランスの高い出生率を支えるもの

- 高い出産期女性の労働力率(80%)と高い合計特殊出生率(1.89)
- 手厚くきめ細かい家族手当
 - ・第2子以降には所得制限なしで20歳になる直前まで家族手当を給付
 - ・子どもが3歳になるまで育児休業または労働時間短縮が認められ、第2子以降の育児休業手当は3歳まで受給可能
 - ・保育ママ、ベビーシッターの利用に関する補助金も利用可能
- 子どもをもつ家庭に有利なN分N乗方式の所得税制
- 多様な保育サービス
- 同性による婚外子が一般化

2.ドイツはなぜ出生率が低いのか

- ドイツは児童手当等の現金給付は手厚いが、合計特殊出生率は低迷(1.34)
- 保育サービスが不足
- 学校は半日制、給食はなく、子どもは昼前に下校するため、母親のフルタイム就業は事実今日困難
- フラゾよりも性別役割分業意識が強いこともあいまって、女性は就業か子育てかの二者択一を迫られる状況

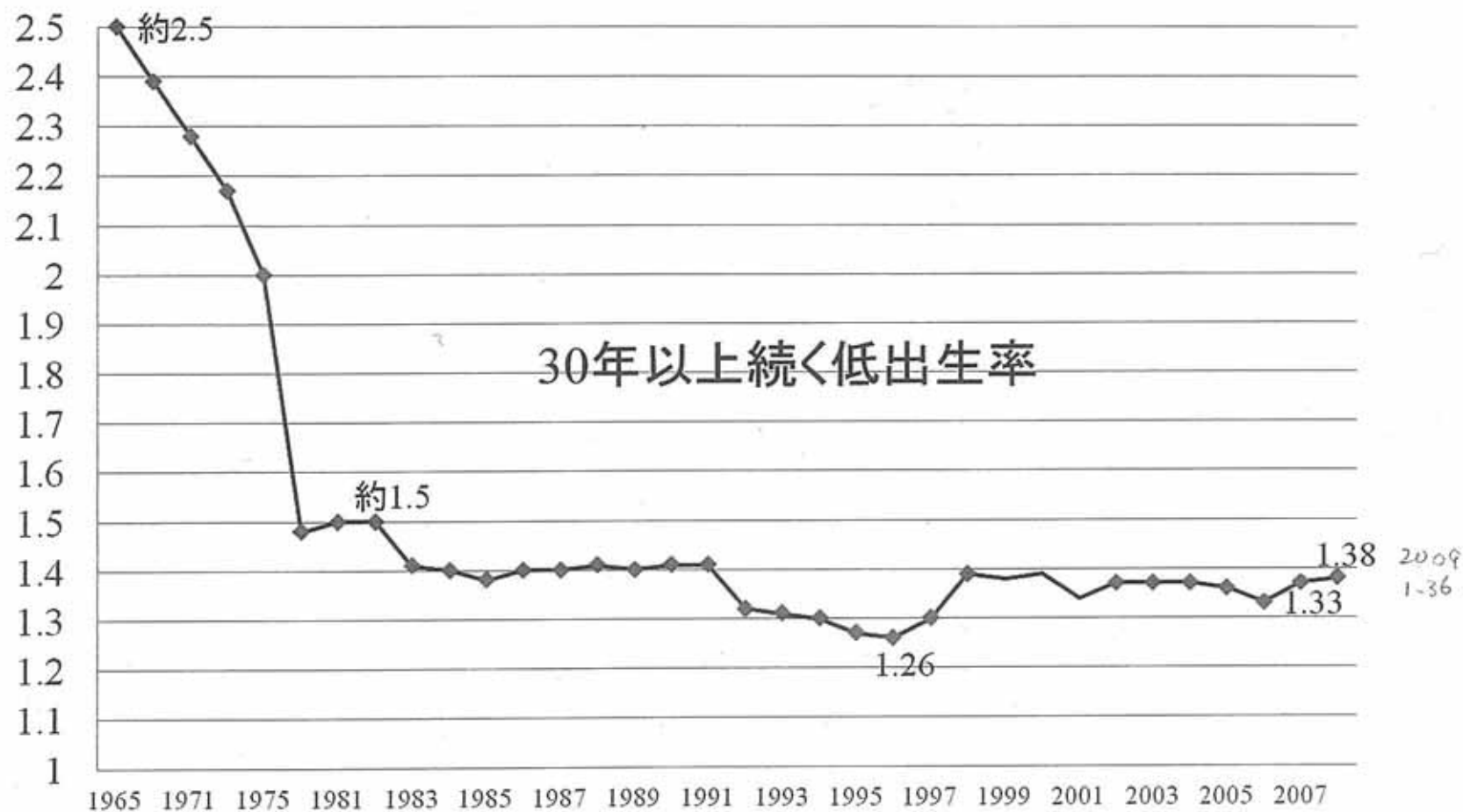
3.日本への含意

- 家族政策の内容、子育てをめぐる諸政策の一貫性等が必要

8.9.21
民主党政権

子ども手当
26,000

ドイツの合計特殊出生率の推移



注)1990年以前は西ドイツの統計である。